

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2773302175		
法人名	社会福祉法人 モアーマインド		
事業所名	グループホーム モアーマインド		
所在地	大阪市西成区天下茶屋北2-4-14		
自己評価作成日	令和元年8月10日	評価結果市町村受理日	令和元年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族と疎遠な方が多いので、家庭的なぬくもりのある施設として運営していければと思っております。食事に関しては、入居者様に対して手作りで心のこもった温かいものを提供することを心掛けています。運営推進会議を通して、地域行事にも積極的に参加し、地域の方々が入居者様がふれあう機会を設けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2006年3月に開所して13年半を経過し、開所以来の利用者も入居後半月ほどの利用者も、落ち着いた穏やかな表情で、家庭的なぬくもりを感じる。家族と疎遠な利用者も多いが、利用者や職員のほぼ全員が、西成地区という同じ圏内での生活経験を有し、暮らしづりが理解し合えるという親密さが、落ち着いた雰囲気につながっている。職歴の長い職員も多く、介護経験の長短に関わりなく何でも話し合えるチームワークの良さが窺える。色々な地域行事に積極的に参加し、外来受診時や近くの理美容店の利用時などに、近隣の人の馴染みを深めるなど、地域と良く交流を続けている。配達された食材に味付けを工夫して調理し、行事食も手作りするなど、理念にある「思いやりの心」は、食べることが楽しみの利用者の完食に表れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作成し事務所に掲示し職員が周知するようにしている。	リビングフロアの壁の誰でも見える所に、事業所理念「思いやりのある心 あなたらしさを大切に 地域との交流を大切に」を掲示し、利用者・家族・訪問者に周知している。職員はミーティングなどでも理念を確認して、利用者の「その人らしさ」を大切にしたいケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事にも積極的に参加し近隣の方々との交流を深める。	事業所は町会に加入し、色々な地域行事に積極的に参加している。日常的に近隣の店や理美容室を利用したり、月1回事業所から段ボールなどの資源ゴミを出している。社会福祉協議会やふれあい地域活動協議会に参加して情報交換している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方々からの介護相談や入居相談も積極的に受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の割合で運営推進会議を開催して地域住民の方々や地域包括の方からの助言も参考にして施設運営の向上に努めている。	2ヶ月毎の午後に会議を行っているが、参加者の都合に合わせて次回の開催月日を決めている。地域包括支援センター職員・社会福祉協議会関係者・町会長・女性部長・民生委員・利用者・家族・理事長・管理者・ケアマネジャー・職員と多様な参加者がある。会議では、入居者の状況や活動・研修報告、地域行事の情報交換を行っている。議事録は参加者と家族に配付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の福祉担当の方と相談したり連絡をとり、入居者様がより良い環境、サービスが受けれるようにしている。	包括支援センターや区役所の生活福祉関係部署との入居などの相談が多い。利用者の相談は生活福祉担当者・ケースワーカーに、法改正のわからない時は高齢介護課に聞いている。区のグループホームと小多機能施設の月1回の全体会議で情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、マニュアルに沿った研修を実施する。	身体拘束マニュアルを作成し、外部研修に参加して内部研修で職員に伝達している。職員は、拘束による弊害を理解してケアしており、拘束の事例は無い。地域性のある独特な言葉など、他者が聞き苦しいような言葉遣いがあれば、場所を替えて注意している。	身体拘束適正化の指針を作成し、3ヶ月に「身体拘束適正化委員会」を開催して議事録を残し、身体拘束をしないケアを更に実践することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアーミーティングの際に拘束・虐待がないように話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等で理解・活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様・家族様と面談時に十分な説明を行い、理解して頂いたうえで、契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置している。また絶えずご家族様の要望に対して、管理者及びスタッフが話し合い状況を説明している。	家族の面会時は、利用者の日頃の様子を報告し、意見や要望を直接聞いている。利用者は、日頃の生活の中で、自分の思いや意見を直接言う場合があり、その時々適切に対応している。思いや意見を直接言えない人は、家族や代理人に聞いて把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアーミーティングや全体ミーティング、個別面談にて意見交換をして対応している。	随時の職員ミーティングや、日常的な活動の中で、管理者は職員の意見を聞き、その都度フロア主任や職員と話し合っ解決している。職員の意見は、利用者のケアに関することが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が職員個々の勤務状態・実績を把握し、各職員にあった労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に二回自己評価を行い、職員個々のレベルを把握し、外部研修や勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は稼働会議を行い、同法人内の他施設との情報交換の機会を用意している。また同法人内の他施設共同の研修会を行い、技術の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学、自宅訪問など状況に応じて面談の機会を作り、より良く話を聞けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の状況を十分に把握して不安な気持ちを少しでも軽減できるようにし、安心感が持てるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・家族様の要望にあったサービスがうけられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできる事、出来ない事を把握して、個々にあったサービスができるよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族の話をしたり、ご本人に好きなものを教えてもらうなどして当施設での生活向上に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人などが気軽に訪問できるような雰囲気づくりに努めている。	独居の利用者も多く、馴染みの関係を把握出来ない人もいるが、近隣に住む兄妹が時々訪問する人もいる。買い物の店や理美容室で顔なじみになったり、職員と馴染みの関係になっている利用者が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	りびんぐで集えるような雰囲気づくりをしたり、コミュニケーションの場づくりができるように努める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様との付き合いを大切にし、良い関係が築けるよう努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を日常的な会話や行動で把握するように努めている。	日常生活の中で利用者の思いや希望を聴いて支援している。集団生活が慣れない入居時には、居室で食事を提供したり、時差で食卓に着いてもらうなど配慮している。難聴の人には、ジェスチャーや選べるような工夫をして、自分の意思を伝えてもらったり、毎日の支援の中で、利用者の表情や行動・仕草によって把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族様、ケアマネージャーから以前のサービス利用の情報を得て把握できるように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、食事摂取の状況確認、毎月の体重測定を行い心身の状態の把握、異常を早期発見できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一回、介護計画の見直しを行い、必要に応じて話し合いを持ち、ご本人・ご家族・スタッフの意見が反映した介護計画を作成している。	介護計画は短期目標6ヶ月、長期目標1年とし、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。6ヶ月毎および利用者の状況変化時に計画を見直している。利用者・家族(必要時は医師・看護師も)の意見を基に、担当者会議を開いて計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用いスタッフ全員が共有した情報を持ち、介護支援できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や往診などの連携や相談、老人会などの参加ができるよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じた、地域の行事やお祭りに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、又はご本人希望の医院での定期的な受診ができるよう支援している。	協力医院の往診を月2回受けている利用者は4人で、従来のかかりつけ医を月2回受診している人は、職員が車で送迎している。地域の歯科医院に通院している人も職員が送迎しているが、希望者のみ歯科往診を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院や主治医との連携を持ちご家族との方針が決められるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後も主治医と相談し、退院にむけての方針を話し合い、安心安全な生活がくれよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りは行っていないため、終末期には医療機関との連携により話し合いをもって対応できるよう支援している。	入居時に、看取りケアを行っていないことを利用者・家族に説明している。食事がとれない、発熱が続くなど、利用者の状態変化時は、管理者とケアマネジャーが判断して、かかりつけ医や協力医療機関に連絡し、職員が付き添って病院で受診している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを全ての職員が把握し、フロアーミーティングなどで話し合う機会を持ち、その場に応じた対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、日中と夜間の火災想定で消防署立会いで行い、避難や消火の指導を受けている。	大阪市地域防災対策に沿って、マニュアルを作成し、耐震・津波・風水害対策を立て、利用者も参加して年2回防災訓練を行っている。社協や小学校の訓練にも参加し、地震体験して三角巾の使用方法なども学習している。津波や台風の時は事業所の3階に避難して、無理な移動はしないことにしている。ライト・カセットコンロ・水・缶詰・米・オムツ類などを備蓄し、点検表でチェックしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮して必ず個人情報はスタッフルームで話をするようにし、一人ひとりを尊重した声掛けをするようにしている。	利用者一人ひとりの仕草や日常生活の習慣を良く観察し、尊厳を損なわないようその人に合った言葉かけや表現で接している。時には地域の方言を用いたり、人生の先輩として尊重した声かけをするよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いが表現しやすい雰囲気づくりや一人ひとりに合わせた説明方法を用いて、理解していただき、自己決定できるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重し、その人らしく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時に理髪店などに同行し外出時の身だしなみが行える声掛けをしている。また、その人らしい服装ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューを取り入れたり、楽しく食事ができるよう支援している。片付けや準備などできる事は一緒にするよう心掛けている。	業者から献立表付きの食材が2日毎に配達され、各フロアで職員が調理している。季節の献立や行事食も計画的に行い、利用者と一緒にホットケーキ・たこ焼きなどのおやつを作って楽しんでいる。社会福祉協議会の花見会や閉校した小学校での模擬店に、弁当持参で出かけて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に量を調整するとともに、食べやすいように調理法を工夫するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや義歯洗浄の声掛け、援助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせた声掛けを行うとともに自立に向けた支援を行っている。またできる限り、プライバシーに配慮してオムツ交換などを行っている。	利用者の様子や仕草を観察し、声かけしてトイレへ誘導している。オムツの人は傍に行って「着替えをしませんか？」などその人に合った声かけをしている。病院退院後に入居した利用者が、歩行訓練してトイレまで行ってオムツ外しが出来た例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	口腔体操や水分補給を十分行い、排便をチェックし、受診時に相談ができるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回、時間帯や体調に合わせて、ご本人の希望で入浴をしている。	週に2～3回の入浴を基本に、時間帯は利用者の体調に合わせてたり本人の希望に沿っている。気分的に嫌がる利用者は、タイミングや職員を替えて対応し、介護度5の人は2人介助でシャワー浴を行っている。湯は利用者毎に替えて清潔にし、季節の柚子湯・しょうぶ湯も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時にはゆっくり話を聞くなど、安心して眠れるよう支援している。また日中は食後の休憩が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	サービス提供票・薬箋などで、個別に薬などについて十分理解した上で、確認して投与できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、散髪、散歩などできる限り外出をし、ご本人が選んだ嗜好品を購入している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換できるように、希望時や定期的な声掛けを行い、外出できるように心掛けている。	1階の敷地内や玄関前での外気浴や、事業所周辺の散歩をしている。利用者の病院受診は職員が付き添うため、月2回は帰りに買い物に同行している。1階の小規模多機能施設が空いている土・日に、カラオケやパチンコを楽しみに行くことがある	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している入居者には、自由にお金が見えるように、買い物時に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のやり取りは、本人希望でいつでもできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は毎日行い、リビングにはソファなどを置くなどして集える雰囲気になっている	リビングルーム兼食堂には、ソファやテーブル・椅子などが、転倒に留意した導線で配置されている。イベント写真や季節の飾りけ(星空をイメージした飾り)があって季節感がある。向かい側にマンションがあるため常にカーテンが引かれ、日差し除けもあって一部分閉塞感を感じるが、廊下側はレースカーテンで明るい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを観たりテーブル席で自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置けるスペースを確保し、本人が慣れた場所に収納できるように配慮している。	居室の掃除や整理整頓は職員が行い、利用者が出来る場合は一緒にしている。居室のエアコン・ベッド・カーテンは事業所が設備している。利用者は、馴染みの物や作品を飾り、独居の人や認知度の高い人が、シンプルに整理している部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの柵やトイレ、廊下の手すりを設置し、安全に自立した生活が送れるように努めている。		